



射水市立小杉小学校 学校だより

杉っ子

第9号

令和4年12月21日

「ありがとう」は人と人をつなぐ、 幸せを呼ぶまほうの言葉



雨の日、1年生の小柄な女の子が雨カップをかけようと背伸びをしてがんばっていますが、なかなか届きません。弱音を吐かず強いなと感心しました。「お手伝いがいりそうだったら言ってね」と伝えて見守っていたところ、登校してきた1年生の男の子が黙ってカップを受け取ってかけてあげました。女の子は「ありがとう」とさわやかに伝えていました。

また、ある日、廊下のほこりを私がとっていると、「ありがとうございます」と言って、高学年の女の子が通って行きました。「お疲れ様です」と言ってくれた子もいました。

きっと、どの子も普段の生活の中で、「ありがとう」という言葉のプレゼントをたくさんもらって成長してきたのでしょう。それが、人のがんばりを認める姿、優しい言葉、行動につながっているのだと思います。「ありがとう」と伝えた方もその言葉をももらった方も幸せな気持ちになります。心のつながりが生まれます。

本校では、つながり合う力、自己有用感を育むことを今年度の重点目標として教育活動を進めています。耳慣れない言葉ですが、「自己有用感」とは、誰かの役に立った、喜んでもらえたといった相手の存在があってこそ生まれる感情です。この感情があってこそ、ありのままの自分を認め、他者も認め、自信をもってたくましく生きていくことができるのだと言われます。

さて、学校は今週末で2学期を終え、冬休みとなります。健康で過ごせたこと、当たり前のようにできていること（してもらっていること）に感謝し、ご家族で「ありがとう」の言葉のプレゼント交換をされてはいかがでしょうか。そして、冬休みは、家庭でのお手伝い等、自己有用感を高めるチャンスがいっぱいです。子供たちには、人に喜んでもらう体験を一つでも多く積んでもらいたいと思います。



たくさんの方が学校を応援してくださっています



1・2年生 読み聞かせの方とお話の世界に浸っています



3年生 ハープの演奏を聴いたり体験したりしました



6年生 民生委員の方の仕事や支え合いの仕組みを教えてくださいました

子供たちの学習を実りあるものにするためにこの他にも多くの外部講師の方が来てくださっています。ありがとうございます。

児童会活動 ～愛言葉でつながる笑顔！～

各委員会では、子供たちの願いや思いを生かして、活動を工夫しています。全校の人に喜んでほしい、みんなが笑顔になってほしいという委員会の子供たちの思いと、それにこたえる全校児童の思いが合わさって笑顔がたくさん生まれています。一部の活動を紹介します。



【体育委員会 クモ歩きレース】

手軽にできる運動に親んでもらおうと考えたクモ歩きレース。「これに参加するために給食を早く食べたよ!」と、やる気満々の子供たちがいっぱい。寒い体育館でしたが熱気にあふれていました。(私もちょっと挑戦しましたが、ほんの数メートルでダウンしました。子供たちは元気です。)

【生活委員会 あいさつ運動】

毎週、火・金曜日に行い、率先して挨拶をしたり、よい挨拶の子供を昼の放送で紹介したりしています。最近は低学年を中心に挨拶運動に自主的に参加する子供が増えてきました。元気で明るい挨拶がこだましています。



【掲示委員会 イラストコンクール】

全校に呼び掛けて集まったイラストが掲示されると、「これ、ぼくの!」「わあ、このイラストすごいね」「先生もイラストを描いてくれたんだよ」と、掲示板の前に人だかりができました。好きなものや季節のもの、キャラクター等を思い思いに描いた子供らしい作品が並び、学校生活を楽しませてくれました。

【川の森委員会 水槽の紹介番組】

水槽にいる生き物や水草について知ってもらおうと番組を作り、各教室で見てもらいました。クイズもあり、「水草が1m以上にも成長するんだね」「この水草の花、かわいいね」と関心を高めることができました。



【計画委員会 ハつの愛言葉でつなぐチャレンジウィーク】

各クラスで取り組みたい愛言葉を三つ選び、意識して生活をしました。そして、その日に自分が一番がんばった愛言葉にシールを貼っていきました。

<クラスの振り返りから>

- ・一人にいる人に声をかけていた。
- ・話合いで男女を問わず、いろんな人と話している。
- ・友達が失敗しても温かく助ける力がアップした。